

## 令和5年度第2回 札幌市災害時物資供給検討会 議事要旨

### 1 日時

令和5年12月6日（水）15時00分～17時00分

### 2 会場

T K P札幌駅カンファレンスセンター3階ホールB

### 3 出席団体

#### 【学識経験者】

国立研究開発法人 防災科学技術研究所

#### 【小売】

イオン北海道株式会社／N P O法人コメリ災害対策センター／株式会社サッポロドラッグストア／株式会社セコマ／株式会社セブン-イレブン・ジャパン／株式会社ラルズ／株式会社ローソン

#### 【輸送】

一般社団法人 AZ-COM 丸和・支援ネットワーク／佐川急便株式会社／日本通運株式会社／北海道福山通運株式会社／ヤマト運輸株式会社

※一般社団法人札幌地区トラック協会は欠席

#### 【倉庫】

札幌倉庫協会

#### 【行政機関】

北海道運輸局／北海道開発局／札幌市

※北海道は欠席

### 4 会議の概要

#### (1) 議事

ア 第1回検討会の振り返り

イ 物資供給体制とフェーズの考え方

ウ 防災備蓄倉庫整備方針の検討全体像

エ 既存備蓄物資の質的・量的評価の実施による、備蓄物資スペース新規需要の把握

オ 防災備蓄倉庫の規模需要を満たす土地・建物状況の把握

カ 物資供給マニュアルの構成案

キ 今後の予定

## 5 主な意見

### 【物資供給体制とフェーズの考え方】

○体制をフェーズで切るのが良い。一方で、事業者の動きとしては、電気、ガス、水道などのインフラがどのくらい回復するかによって、行動範囲や制約が変わってくる。経験値でいうと、ガスはほとんど止まらず、水道も比較的早く復旧するイメージだが、電気がどのくらいのスピードで回復するかによって、工場がどの段階で動けるかが変わってくる。災害規模によって変わると思うが、過去の災害ではインフラが何割くらい回復したかということフェーズに当てはめながら、管理をした方が良い。

➤ 地域防災計画において、各種インフラの回復スピードを記載しているため、フェーズに反映させていきたい。

○3日目以降に民間物資の供給がおよそ80万食必要と算出されているが、計算根拠と日別にどのくらい用意したら良いのかが重要で、トータル80万食というよりも、1日どれくらいの数量を想定しているのか言われたほうが、イメージが付きやすい。

➤ 具体的な日割については、今後検討が必要。

○道路状況の確認は国の役割になっているが、市内部の体制では道路状況の確認はどのようになされるのか。

○冬の災害を想定すると、大雪では車両が走れないという課題もある。冬期間の除雪の在り方も札幌市で検討していると思うが、早め早めの除雪の実施も検討の中に入れてほしい。

➤ 災害対策本部にどこが通れないという情報も入る。どのような形で皆様にお伝えするか体制は確立できていないので検討したい。

➤ 今後は国においても交通情報を含めた整備をしていくと聞いている。そういった動きと連動して、より良いものを作っていきたい。

○避難所の開設は、主に市立小中学校を想定していると思うが、公民館などは区長の判断で開設されるのか。自治体が公認としている避難所なら分かるが、私設避難所への搬送に関する判断は難しい。

○市民だけではなく、外国人観光客も避難所に来ることも考えられるが、物資を供給して良いのかどうか。避難所といわれているところは、どういったところを想定しているのか。

➤ 指定避難所は「基幹」「地域」の2種類ある。基幹は、職員が運営し市の備蓄がある。地域は基幹を補完する避難所で、施設管理者と区長が協議し開設する。市の備蓄は置いていないが、施設管理者等が自主的に用意しているところもある。

➤ 観光客については、「一時滞在施設」に誘導するが、観光客が避難所へ行くことを拒むものではない。

➤ 一時滞在施設についても、多くの帰宅困難者が集まった場合には、物資供給のご協力をいただく可能性がある。

○災害が長期化して、おにぎりや弁当などを調達する場合、車両は温度管理が必要だが、そのような条件も含めて車両手配を市で行うのか。

➤ おにぎりや弁当などについては、物資集積拠点を経由して避難所に配送するのは衛生的に懸念があるため、可能な限り、直接避難所に配送していただきたい。

○避難所には市職員が配置されていて、納品した際に受け入れる職員がいるのか。学校の職員も含まれるのか。

➤ 現時点では、学校職員以外に避難所運営のため数名の市職員を配置する計画である。

○市の調達担当から物資提供者（小売・製造）に連絡が行くフローになっていると思うが、物資提供者は在庫有無を確認したうえで、判断する。この場合、調達担当と車両手配担当が別々にいるため、先に車両を手配したが、ふたを開けると、実際には物資が無いという事態になる可能性もある。

➤ 輸送事業者との連携については、具体的な体制は決まっていないが、そういった点も含めてマニュアルに反映していくため、ご提案をいただきたい。

○札幌市に対する北海道からの支援についてはどう検討していくのか。物資の調達で重複する場合もあると考えられる。

➤ 北海道は被災した自治体に対して、広域的な支援を行うため、札幌市もその支援を受ける可能性がある。

➤ 北海道との分担が確定しているわけではないため、北海道との協議を引き続き行っていく。

○大量に供給したい時は、パレットでの供給になる。物流事業者がパレットで受けられるのか、小売と物流である程度どういった形が良いのか詰めておいたほうが良い。避難所でリフトが無い中でどのように荷下ろしするとよいのか、また、少なくとも手積みはかなり負担や時間もかかるため、どちらが行うのか。そのあたりがうまく連携しなければ、大量の物資を迅速に輸送するのは難しいため、そういった内容を調整できるタイミングがあるとよい。

○パレットで供給する場合は回収の物流も必要になる。より具体的だが事業者同士で調整し良い形ができればと思う。

#### 【防災備蓄倉庫について】

○現状、同じ列に同じ品目が積まれているという認識で良いか。

○ラックは使用しているか。

○将来的に、荷捌き場として保管スペースと同じくらいの面積を考えているかと思うが、積み方によって必要なスペースも変わる。シミュレーションした倉庫を1か所で補うのか、市内に何か所か用意するのか。これだけ大きなスペースを1か所で用意するのは難しい。例えば品目によって倉庫を変えたりすることも可能なのか。

- 現状、同じ列に同じ品目を積んでいる。
- ラックは使用していない。
- 現在、倉庫は豊平川挟んで東西に配置している。今後も分けて2か所以上で配置することも考えている。

○現状の倉庫で出荷する際、ピッキングは発生するのか。もしくは段ボール単位で出荷となるのか。出荷時にどのような単位で出荷するのか、ピッキングが発生するのかで、人がいるのかいないのかという論点になる。

○今後の倉庫のシミュレーションは、消費期限等もあるので、先に入れたものを先に出すといった作業スペースもみでの計算式になっているのか。

- 出庫の際、ピッキングし様々な物資を組み合わせで避難所に配送することを想定している。
- シミュレーションは8パターンあり、荷捌きスペースを加えたものもある。

○現在2か所で保管している物資を事業者が委託を受けて作業することはできるが、在庫管理については、倉庫業法上、営業倉庫でしかできない。また、現状の倉庫ではリフト作業もできないことから営業倉庫が良いと思う。

○発注や販売も含む行為は倉庫業者としてはできないため、受入・蔵置と在庫管理までかと思う。

○倉庫の状況によって、商品別に分けたり、商品の期限によってパレット積みしたりするのであれば、出荷する場合の単位数など工夫すれば大幅な人手も必要なくなるため、その辺も含めて把握できればと思う。

○仮に今、地震が起きたら倉庫は機能しないと思う。何百人も人を集めないと、物が出せない。現状の倉庫は「廃止の方向」という説明があったが、「廃止」しかないと思う。

○倉庫を1か所だけにするという話もあったが、災害時はリスクヘッジをどこまで取るかが最重要だと思うので、この6,000 m<sup>2</sup>をどのように分散するのが一番必要な意見交換だと思う。

○それぞれの会社で必要なリソースがどこまであるのか、水準書の内容では、倉庫の想定位置に北広島や石狩など近隣自治体もあり、広域連携の話もある。現在検討会に参加しているのは札幌市内の事業者であるが、枠組みの話を広げるのであれば、展開も少し広げたほうがよいのでは。

- 資料には、「災害時、札幌市が緊急時連絡先に対して要請を行った後に 24 時間以内に備蓄物資搬出体制を整えることが可能であること」という記載があるが、条件としては難易度が高い。こういった条件を設定するのであれば、旧型倉庫ではなく、近年建っているスペックの高い倉庫も検討が必要。ある程度高い水準で考えることは賛成だが、実際に協力ができる企業があるのかは考える必要がある。
- 実際に民間企業が請け負った場合、契約形態はどうか。発災しない限り、長期間、同じ場所で保管し続けることは、公共・公益・公平という観点からみて、通るものなのか。
- 例えば、倉庫協会が主体となって新たなハードを作って、第3セクターが運営するようなことも検討に入れた方が良いのではないか。また、札幌都心部の再開発要件に、物資の備蓄等も盛り込んでいくということも考えられる。

- 契約期間は、通常3～5年程度になる見込み。
- 民間倉庫での保管だけでなく、新たに建てるなどの手法も含めて検討したい。

- 備蓄倉庫は主に基幹避難所に配送するのが機能だと思うが、避難所が307箇所あって、倉庫が2か所とすると、それぞれの倉庫で約150箇所の避難所を分担することとなる。
- 多くが学校なので、2～4t車、2～3回転とすると、50台を捌ける倉庫となると、なかなか厳しい。作業をイメージすると、倉庫は4～5箇所なのかというイメージをしている。

- 被害想定上、震度6弱以上で307箇所の基幹避難所を開設する。避難所にも備蓄物資を置いているが、足りなくなった場合、倉庫から配送するという形となるため、災害発生時の配送箇所数は限られる見込み。
- 倉庫の物資については、全体の2割分と多くはないため、被害が大きい地域に物資を集中させるイメージ。札幌ドームやつどーむのような物資集積拠点では、車両が数十台停車できるスペースが必要と思うが、備蓄倉庫については、同程度まで必要ないと思う。